



# しるばあくらぶ

第67号

SILVER CLUB Office : B-4 L-12 Ph 5BB. Cristobal St. Gatchalian. Subd., Las pinas City ☎:825-6118

第67回しるばあくらぶ出席者名、2012年2月15日、SHABU YAKIにて(敬称略、順不同)

西村夫妻、斉藤、杉山、天木、加藤夫妻、池田、鈴木、門田、種井、増田、石山、山口、原田、片渕、神谷、藤井(弟)、落合夫妻、藤井(兄)夫妻、山本、森泰平、岸川、小島、入江、宍戸、高木、浦野、小林、辻 32名

いつものように6時開始、外での夜風に吹かれながらの歓談と食事に花が咲いた、楽しい2時間でした。



## 第56回ゴルフ大会

3月1日(木) カンルーバン北コース 9:30am-4:00pm

申込者29名、不参加者2名、途中棄権者1名、初参加者3名(中山、津坂、堀井S)となりました。

定刻の9時には集合完了し、9時半スタート、予定の3時前には最終組が終了、スコア集計、成績発表および懇親会を行い4時に解散となりました。野呂さんが途中体調不良で棄権されたそうです、その他は何事もなく皆さんの協力で無事に終了することができました、お礼を申し上げます。

今回はスタート前、小林さんが欠場されましたので、代わりに堀井さんより組み合わせ、簡単なプレイ上の説明がありました。いつものように石山会長のひと言があり、キャデーを含めた全員の写真撮影の後、1組よりのチーオフとなりました。天気は少し曇りがちで適度に風があり、気持ちの良いゴルフができ、それぞれ楽しまれたのではないかと思います。

### ★初参加者の自己紹介

津坂氏 北海道出身、在比歴5年、ゴルフ歴30年、現在ケソン市に在住

中山氏 東京都出身

堀井S 堀井さんの息子さん

入賞者の顔ぶれと、次回のHCPは、下記の成績表をご覧ください。次回開催はオーチャードですが、開催日は未定です。

## 第56回ゴルフ大会

2012/3/1

順位	名前	OUT	IN	GROS	HCP	NET	REMARKSS
1位	高桑	50	45	95	26	69	優勝 次回HCP16
2位	岸川	55	55	110	36	74	2位 次回HCP29
3位	芳野	42	42	84	8	76	3位 BG 次回HCP2
4位	町田	54	49	103	27	76	
5位	杉山	50	50	100	23	77	飛び賞
6位	坂下	45	49	94	15	79	
7位	浦野	47	47	94	14	80	ラッキ賞
8位	西村	49	51	100	20	80	

9位	片渕	52	55	107	27	80	
10位	小野寺	45	45	90	9	81	飛び賞
11位	神谷	49	48	97	16	81	DL
12位	中原	50	51	101	20	81	
13位	石山	47	45	92	10	82	
14位	小野	47	49	96	14	82	
15位	澤田	59	47	106	22	84	飛び賞 NP
16位	辻	46	48	94	9	85	NP
17位	成子	49	48	97	11	86	
18位	堀井	51	40	91	4	87	
19位	落合	57	55	112	25	87	DS
20位	西野	46	47	93	5	88	飛び賞 NP
21位	藤井	54	51	105	14	91	NP
22位	伊藤	57	56	113	17	96	BB
23位	原田	63	56	119	19	100	
24位	堀井S	66	61	127	初参加		次回 HCP36
25位	津坂	63	62	125	初参加		次回 HCP36
26位	中山	50	50	100	初参加		次回 HCP22
27位							





## マニラシルバー会より、例会のお知らせ

マニラシルバー会は純粋な親睦の会です。会員に負担をかける事業などには一切関わっていません。気軽に集まって語り合う会員中心の会です。基本的には55歳以上で、健全な会の育成に協力いただける方の参加をお待ちしています。当会の会員は遠隔地からも多数参加されるので

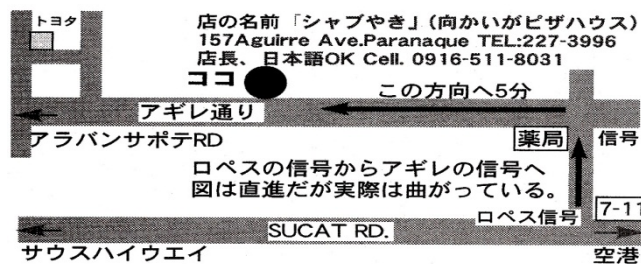
- 1、奇数月はマカチ「きくふじ」第3日曜日
- 2、偶数月はパラニャーケ「SYABU-YAKI」第3水曜隔月で会場を変えて開催しています。◎参加ご希望の方は準備の都合上、前もって下記まで連絡下さい。

石山 ☎0917-859-2688 小林 ☎0915-354-4528 堀井 ☎0918-918-6526

次回開催は4月18日(水)午後5時～8時

参加要項と地図

◎参加費：600ペソ（鍋料理、生ビール付き）



### \*\*\* シルバー会のホームページ案内 \*\*\*

下記アドレスで立ち上げました。

一度アクセスしてみてください。

<http://www.manilasilverclub.org>

シルバー会のホームページについて、質問、問い合わせのある方は下まで。

堀井満重 ☎0918-918-6526 井上完治 ☎0928-355-2598



## 雑学の勧め

門田昌昭



NO24「日本初のいろいろ」その12

### 1、郵便はがき初登場

1873年(明治6年)12月1日「郵便はがき紙」が1枚半銭で初登場した。これは二つ折りだったが、表記を間違えやすいなど不便だったため、1875年(明治8年)5月から縦16.5cm、よこ7.8cmの単葉に改められた。

### 2、紡績工場の始まり

薩摩藩主島津斉彬は、わが国初の紡績工場を作るため、イギリスのプラット兄弟社から蒸気機関を動力とする紡績機械を買い入れた。その機械を積んだ船が長崎港に到着したのが1867年(慶応3年)12月7日だった。紡績工場はその後、大阪や東京にも作られるが、幕末から稼働したのは薩摩藩の鹿児島紡績所だけである。

### 3、田中正造、天皇に直訴

明治の中ごろ栃木県足尾銅山からの鉱毒の広がり大きな社会問題となった。同県出身の代議士田中正造は、第一回衆議院議員に当選(1890年明治23年)以来、この問題解決のために奔走したが、思うに任せなかった。一介の野人としてこの問題に身をささげる決意を固めた田中は代議士を辞任した。1901年(明治34年)12月10日帝国議会を開院式を終えて帰られる明治天皇の行列に対し、直訴という非常手段を取った。しかし、直訴は受け付けられず、政府は田中を単なる狂人として、事件を闇の中に葬ってしまった。

### 4、南山城国一揆が集会開く

応仁の乱の後も、南山城地方(京都府南部)では、畠山義就(よしなり)と政長(まさなが)との争いが続き、神社や民家が焼き払われ、住民は困窮していた。一帯の国人(こくじん)、地侍、農民らが、1485年(室町時代)12月11日、集会を開き、両畠山軍の国内からの退去を強硬に要求し、それを実現させた。その後、南山城は一つの国として、8年間、独立性を保ち続けた。

### 5、鈴木梅太郎ビタミンB1を発見

鈴木梅太郎は国民生活に直結した農芸化学、生物化学に貢献した人だった。1910年(明治43年)12月14日、彼は、米ぬかから栄養有効成分オリザニンを抽出することに成功した。ビタミンの名はこの時なかった。同じころポーランドの学者フランクが糖の中から脚気(かっけ)を治す成分を発見、「生命のために大事なアミン」

つまり「ビタミン」という名をつけ、1912年に英文で発表した。ビタミンの名が普及し、鈴木博士の業績も再確認された。

### 6、日本での飛行実験初成功

ライト兄弟の飛行実験成功から7年後、奇しくもその記念日にあたる1910年(明治43年)12月14日、わが国でも初飛行に成功している。場所は東京の代々木練兵場。操縦したのは日野熊蔵陸軍大尉で、グラデー式単葉機がフワリと10mの高さまで浮上した。しかし、この日は地上滑走日の予定だったので、公式飛行記録にはなっていない。公式飛行記録は翌15日で、2mの高さで100mの距離を飛んだ。だが、なぜかこの記録が無視され、同月19日の徳川好敏陸軍大尉が初飛行と言われている。徳川大尉の記録は、70mの高さで3kmの距離を4分間飛んだ(フランス製アンリー・ファルマン式複葉機使用)。

### 7、日本初のデパート

東京日本橋の三井呉服店が株式組織となり、三越呉服店と改称したのが明治37年(1904年)12月20日。改称と同時に日本初の欧米式デパートとして営業を開始した。三越の創業は、三井八郎衛門高利が天和3年(1683年)に開店した呉服店の越後屋。開店当初から、店内での値引きなしの現金販売を実施した。当時としては画期的なことだった。三越の名は三井の「三」と越後屋の「越」をとったもの。

### 8、昭和に改元

1926年(大正15年)12月25日大正天皇が崩御され、元号は「昭和」と改められた。書経の暁天(ぎょうてん)にある「百姓昭明・万邦協和」から上下一字ずつ取ったもの。実は、元号は「光文」と改められることになっていた。だが、天皇崩御の記事とともに、東京日日新聞(現在の毎日新聞)が「光文」改元を発表してしまった。新天皇即位式ののちに発表するはずがととのえられていたのに、それ以前に一般に知られてしまったため、「光文」はとりやめとなった。こうした候補のひとつになっていた「昭和」が改めて選ばれた。「光文事件」と言われているエピソード。

### 9、志賀潔による赤痢菌の発見

1897年(明治30年)全国各地で赤痢が大流行し、6月から12月上旬までに約9万人の赤痢患者が発生、うち2万人以上が死亡した。伝染病研究所に勤務していた志賀潔は、赤痢の研究に全力を尽くし、ついに病原菌を突き止めることに成功。1897年(明治30年)12月25日発行の「細菌学雑誌」に「赤痢病原研究報告」を発

表した。

#### 10、わが国最初の地下鉄開通

わが国最初の地下鉄計画から 10 年余りの歳月と巨費を費やし、東京の上野—浅草間 2.2 km に開通した。発車のベルが鳴り響いたのは 1927 年(昭和 2 年)12 月 30 日だった。両駅間の所要時間は 4 分 50 秒。それに対し、初日の待ち時間は 1 時間。初日の乗客は 10 万人にのぼったという。 **次回に続く。**

◇◆=◇◆

### のりさんの随筆

### 生きるということ

入江則昭

空を見上げると、天気の良い夜空には、いつも無数の星が見える。その数は膨大だ。一体いくつあるのだろうか。それに解答を与えられる人は一人もいない。こういうのを無限大というのだろうか。この言葉に満足しておればそれでいい。しかし、人間の中には、何とかしてその数を数えようと、試みている研究者が未だに何人かいる。無限大というのは、数えられないということだ。どんなことをしても、どんなに時間をかけても、数えることができない。それに対して有限な宇宙という考えもでてきているようだ。

私はその考えについていけない。有限な宇宙があるなら、その外側はどうなっているのだろうか。それに対しても答えが用意されているという。この話はそれくらいにして、その無限にある天体の中で人間が住んでいるのは地球だけ、いろいろな偶然が重なりあって、地球という天体に、生物が住むことができた。そんなことはない筈だ。この無数の天体の中には、人間、いや何かの動物が住んでいるところが必ずある。動物とは言わないが、植物を含めた生物ならどこかに生きているはずだ。こういう考え方のもとに、最近それを探し出そうという試みがかなり本気に進んでいるらしい。生物が生きるためには、それに適した環境がまず必要だ。私が生まれた当時には、それが月であったり、火星、水星だろうとかがえられていたが、宇宙へ人間が飛び立つようになってすくなくとも太陽系には、そういう天体は無いということがハッキリ解ってきた。近くにはない。しかし、これだけ多くの天体があるのだから、はるか、はるか遠い天体の中には、そういう星が必ずあるだろう。そこに人工衛星を飛ばして着陸させ、人間がその目で見ることはできないが、その中に地球に通信を送る、設備を入れておいて、そこから地球まで通信で、その映像を送ろう。こういう試みが、実際行われているという情報が入ってくるようになった。きわめてわずかだが、実際その環境が生物が生きるのに、適した天体がいくらかあるらしい。そこに実際人工衛星を飛ばしているらしい。そこから何か、生物が生きていそうだという映像は今のところ全く入ってきていないが、将来、あるいは入ってくるかも知れない。いずれも大きな星ではなく、大きな星の周りを回っている地球くらいの小さな星のようだ。太陽のように中心になる大きな星は、殆どが、火の固まりのような星で、とても生物が住めるような環境ではないようだ。

そもそも、どうして地球に生物が住むようになったか、まず考えられるのは、最初何かの小さな塊が、次第に進化して、現在のような無数の生物に発展していったと考えられる。もちろん聖書に書かれているように、たとえば神といった何かの影響で、生物が作られてきたという意見もあり、それが間違いだという確固たる証拠は何もないので、それを信じるというのでも、間違った考えではないが、進化論のような考えのもとに、生物がこの世に現れ、少しずつ発展して現在の生物系を作ったという考えもあるようだ。

いずれにしても、最初はいなかった生物がどのようにして地球上に現れ、それが現在の生物になっていったのか、その正しい歴史は知りたいと思っている。

生物には、大きくわけて植物と動物がある。私はまずこの地球上には植物が出てきたのだろうと思っている。確固たる証拠は何もない。植物は一酸化炭素を吸って酸素を吐き出す。植物ばかりだと、この地球上は酸素ばかりになって、植物が一酸化炭素を取り入れようとしても、無くなってしまう。そのため酸素を吸って一酸化炭素を吐き出す、何者かが必要になる。こうして動物がでてきた。こう考えると、この世に植物と動物が存在する意味が納得できる。もう一つ、植物は動かないが、動物は動く。これが大きな違いだ。動くものと動かないもの、

これを構成するために、動物と植物が生まれた。あるいは一酸化炭素と酸素の情を満たすため、この二つの生物が生まれた。どちらがその大きな原因かという、私は後者がその原因だとおもっている。しかしそれなら酸素を吸って一酸化炭素を吐き出す、植物が生まれてもいいように思うがどうしてそういう植物は生まれないのだろう。こうなるとこの植物の生える場所が難しい。ここに動き回れる動物が存在して、森の中を走り回って、一酸化炭素を配ってあげれば、大変都合がいい。こうした現在の動植物が存在するようになった。こう考えるのが一番自然なのかもしれない。周りを見てみると、動物に比べて植物のほうがはるかに大きなものが多い。植物くらいの大きな動物がいたら、これは大変だ。何十倍という大きさだ。それに植物の方がはるかに寿命が長い。何百年という植物が深い森の中には数多く存在するらしい。これは動かない、動けないというのが、大きく、長生きする原因になっているのではないだろうか。それじゃ動物と植物では、どちらが幸せだろうか。これは難しい問題だ。

植物は動けないという点を除いて、動物より勝っている点が多いようだ。どちらも感情というものを持っている。活火山は生きてると表現されたことがある。生きてるかそうでないか、判断の難しいところだが、活火山は動いているが、生きてるとは言えない。活火山が生きてるとすると、この宇宙の中で生きているものが、かなり多く見つかる。ここではこれは生きていないと言うことにしておきたい。植物には争いが無いというのも面白い現象だ。その点動物は、争うために生きてるとい性格があるようだ。毎朝近くの道を散歩すると、必ず犬が大きな声で吠えてくる。鎖でつながれているので、効果はないはずだが、習性というのは恐ろしい。同じ動物でも猫は吼えない、戦闘を仕掛けないということで、紐に結ばれていない。このほうがはるかに自由になり幸せのはずだが、習性の方が犬には大切なのだろう。植物はどんどん大きくなってお互いの枝が接するようになると、ここで動物なら権力争いが起こるのだが、植物は枝の伸びる方向を修正して空いた空間にえだを伸ばしていく。

次回に続く。

◇◆=◇◆

## 「タイヘイの Spain 紀行」

“Buenos dias の街から グストゲタ “ 森泰平

Barajas 空港到着、朝 6 時 30 分あたりは真っ暗闇、乞食もいないゴミもない、免税店もない。これで観光客をどう迎えるのか？とても静かな空港到着でした。両替店で 4 万円をユーロにかえて (1 ユーロは 110 円) 待合室 (入管の後) を出ます。そして一路地下鉄に向かいました。目的地は Valencia 地方の Sagunto 市です。そんなわけで私は 11 月 3 日マニラを出国し韓国の仁川国際空港経由でスペインのマドリードに向かいました。目的は老人の柔道コーチと武者修行。そして当地に三か月滞在し、毎日 2 時間生徒、子供、一般にコーチをすることになります。老骨にムチ打っての修行なので結構こたえます。2 年前 PC の Facebook で知り合ったスペインの先生 (40 歳) の要請でいきましたが、往復旅費 (10 万) そして滞在費 (食費) は自分で持つ。部屋代 (アパート) は無料という条件でした。どうせ一度はあの世とやらで、あの世に行く前にヨーロッパの柔道の視察をしてきました。私が滞在した街はマドリードから東に 300km、の地中海に面した Sagunto (人口 10 万) の街です。ここは Valencia 州の中にありあの有名なバレンシアオレンジがたくさんあり世界中に輸出され、日本でもバレンシアオレンジで有名だと思います。結論から言うと今回の旅行は私にとりいろんな意味で大収穫でした。柔道コーチに限らず、スペイン語、スペイン料理、スペイン人の生活などの面で良い経験でした。もちろん友人も多くできました。スペインは失業率 50% ときき他のユーロの国同様貧しい人が多くマニラのように乞食も多いのではないかと、治安も悪いのではないかと感じていましたがその逆で当てが外れました。街もごみがなくきれいでここバレンシアは昔から、芸術文化街、いろんな人がまじりあい、交流し発展しました。地中海に面した海はこの時は冬で気温は 12~18 度 C といえますから、日本の秋で汗もあまりかかず水を飲むこともあまりありません。今ヨ一

ロッパは厳しい冬（2/15、現在）でマドリード9度C、パリ6度CとのTV放映です。マドリードの地下鉄で新幹線に乗り東に2時間、そして駅で柔道のスペイン人先生と会いました。この着いた日にさっそく柔道教室に向かいます。Pario先生（42歳）のクラスは、3歳～10歳まで30名です。週2回の月謝は3,000円。小さい子供が皆それぞれ柔道着を持っていて、父母同伴、とてもマニラを含む他の東南アジア諸国の比ではありません。柔道着を作るメーカーも、5社ぐらいあり競っています。聞くところによると、柔道は1992年のBarcelonaオリンピックから人気に火がついたらしくスペイン全土に広まったらしい。このバルセロナ市は私の住む街から北へバスで2時間のところにあり、今でも月1回位柔道の地区大会があるそうです。フランスにも近く夏になると多くのバカンス客でこのあたりは賑わい、ビジネスの大盛況。それでインド人やカリブ海周辺の移住者も多いとか。商魂たくましいらしい。柔道は、サッカー、ゴルフに次ぐスポーツで、テコンド、空手、武術、剣道、サンボよりも人気があり武道の中で第一位です。私自身各地の大会で少し練習しコーチしました。日本人が来たということで大歓迎です。私しかおりません。（日本人）いずれにせよこの国はスポーツ好きで選手を温かく迎える素地があり選手たちと知ると近寄ってくるムードがありありです。私自身公園でトレーニングしていたら何度も声をかけられました。生まれて初めて、6万5千収容のサッカースタジアムで一度試合を見ました。入場料は600円と安く、最も遠い外野席でも良く見えるものです。日本のプロサッカー場やプロ野球場と同じでしょう。サッカーの試合結果が翌朝の挨拶代わりになります。いろんな柔道クラブに行きました。時には、100人集まって合同練習したこともあります。Valenciaaのある道場では1990年第1回世界女子柔道大阪大会に審判として参加した、Emilio先生（72歳）と会いびっくりしました。1990年初めて女子の世界大会があったわけです。其の先生は当時は55歳ぐらいらしく？とてもその時のことを懐かしがり、大阪大会のアルバムを見せてくれました。私が行ったこの時はスペインの闘牛大会が人道的な意味で廃止になったばかりです。そして恒例のトマト大会（トマトの投げ合い）があったばかりでした。でもこれは、食料を粗末にしているのではないか？そんな気がします。最後に今回の旅行を次の項目で解りやすく、まとめてみました。この国の事情です

次回に続く。

\*\*\*\*\*

5年前の「しるばあくらぶ」の記事より

2007年3月21日発行。懇親会「浦島」参加者33名、石山会長以下各氏、伊藤、入江、片渕、岸川、小林、関根、藤井、堀井、森、門田、などが健在で常連で出席

ゴルフは第8回大会が、オーチャードで27名参加のもとで開催され、優勝は堀井氏となっていました。

その他趣味の会としては、あまり現在では行われていませんが、麻雀、囲碁、将棋などが行われていました。

連載記事としては、入江則昭、森泰平、門田昌明各氏の記事があり、今月号にも寄稿されています。本当にありがとうございます。

\*\*\*\*\*

今月号より突然山口さんから依頼されて「しるばあくらぶ」の編集を引き受けることになってしまいました。何分前任者の山口さんがわかりやすく、読みやすく、しかも会員の皆様に親しみやすくを、もつとくに編集をされていたので、私にはそれができるか心配です。私は山口さんのように、出来ませんが、会員皆様の協力と、なるべく多くの原稿を寄せていただくことで、この伝統ある「しるばあくらぶ」の発行を、継続したいと思っています。何分にも初めてなので、間違い、誤字、脱字、などがないようには気を付けますが、もしあったときには、指摘をいただいて、より良いものにしていきたいと思っています。（編集者 片渕幸久）